

五期俳句会 第百五十七回 九月一日

会館の中華料理店が無くなったのと、もう一つの食事処が不味いので
食事が夫々ばらばらになった。その代り差入れは豊富、蔵本さんはお月見
団子、浅香さんは一日餅、他にもクッキーやゼリー等まるで食べ会でした。

ひぐらし
いし
蛸 や季の移りを惜しむかに

松浦武子

朝風や夏の疲れをふと忘る

今井由紀子

遥かなるポリビア塩湖の夏便り

塩田豆子

法師蝉鳴き声変える不思議かな

松浦武子

走馬灯廻すに重き過去がある

浅香さとみ

風鈴のせわしく鳴りて雨模様

塩田のぶこ

蝉の声途切れ途切れて季移る

久貝貞子

秋立つや城喧騒の外にあり

今井由紀子

飄々と風に動くや布袋草

塩田豆子

新涼や掃除機の音高々と

浅香さとみ

行きがけに風船蔓かずらポンと割り

松浦武子

露草の瑠璃色さえて一日花ひとつひ

松浦武子

花殻はなからのなほ色のあり夏の果て

今井由紀子

台風来る負けるもんかと化粧する

浅香さとみ

炎天に遠き稜線ゆれて見ゆ

塩田豆子

立秋やゆるく生きたきふるさに

今井由紀子

七曜の巡り速しや走馬灯

浅香さとみ

干し物が風に躍りて秋気配

塩田亘子

雑草をわけて伸びるや水引草

久貝貞子

さすがに九月となって、暑さも少しましになり、秋らしい句が多くなった。

今月は月見月だし、秋の花も多くなるので佳句が出来るのではと期待して
いる。